

## 第6学年 図画工作科学習指導案

ろ組 男子19名 女子19名 計38名  
指導者 中原 大士

### 1 題材 西洋の絵画のおもしろさを

### 2 題材について

#### (1) 題材の位置とねらい

本題材は、「ゲルニカ」を鑑賞し、作品にこめられた作者の意図や意図に合わせた表現の工夫を感じ取る活動を通して、西洋の絵画を鑑賞する楽しさや面白さに気付く鑑賞の題材である。

この期の子どもたちは、我が国の美術作品を鑑賞する経験や、美術館での鑑賞の経験から、諸外国の美術作品においても興味を示すなど、鑑賞の対象に広がりが見られる。また、材料や場所の具体的な特徴を自分なりに感じ取りながら、周囲の様子との関係や、空間の奥行きに合わせ、材料の配置や組合せを考えるなど、ものごとを分析的にとらえられるようになってきている。さらに、他者の立場になって心情を思い量ったり、内省的に自己を振り返ったりすることのできる能力が育ち、作者の表現の意図や作品の背景など見つめることができるようになってきている。

そこで、西洋の画家であるピカソの絵画を鑑賞することは、新たな鑑賞の対象であり、新たな見方や感じ方によって、自分のイメージの変化を実感することができる。また、作品に表現されている人物の様子や表現方法などをとらえながら、作品の形や色などの造形要素と作品にこめられた作者の表現の意図とを関係付けて、自分なりのイメージをつくり出していくことができる。そして、ピカソの作品のよさや美しさ、作品へのイメージを紹介し合うことで、形や色などの見方の違いに気付き、感じ取る力を伸ばしていくことができる。さらに、直観的にみたり、分析的にみたりするなど様々な鑑賞の仕方を試みることで造形要素を見だし細部まで鑑賞していくことや、作者の意図を考えながら鑑賞していくことのよさに気付き、様々な鑑賞の仕方を身に付けることができる。

このように、西洋の絵画の面白さを感じ取る鑑賞の題材は、「足跡発見！透明人間」で、並べた足跡を基に、透明人間が何をしているか多様に想像したり、足跡をはりながら足跡の形や色を基に、自分なりのイメージを広げたりする活動へと発展していく。

#### (2) 指導の基本的な立場

本題材で扱う絵画は、スペインの画家パブロ・ピカソが描いた西洋の絵画の一つである。西洋絵画の中には、個性的な構図のものや、独特の人物描写、色遣いなどに作者の意図が表されているものがある。また、本題材で扱う絵画「ゲルニカ」は、都市差別攻撃を主題としており、反戦や抵抗のシンボルとされ、攻撃に対する怒りや悲しみが伝わるものである。そしてゲルニカに用いられるキュビズムという技法は、一見それが何を象徴しているのか、明確に伝わりにくいため、想像力がかき立てられる作品である。これらのことから、子どもたちは西洋の絵画の色調や形などをじっくり見る中で、作者の表現の意図や作品のよさを自分なりに感じ取り、意欲的に取り組むことができる。

具体的には、まず、子どもたちの直観的なイメージを大切にするために、対象をじっくりと見ること意識させ、ゲルニカに描かれている人物や周囲の特徴を挙げさせる。次に、西洋の絵画の面白さに気付かせるために、絵画の特徴と作者の意図との関連を考えさせる。その際、登場人物の気持ちなどを詳しく鑑賞する活動を設定し、形や色などの造形要素と作者の意図との関連に気付かせていく。さらに終末の鑑賞においては、友達が作品に加えたセリフから、友達がピカソの絵のよさや美しさをどのように見たのか、考え方や想像したことを読み取り、紹介し合う活動を通して、形や色と作者の意図とのつながりの面白さに気付けるようにする。

このような学習を通して、子どもたちは自分の感覚や活動を基に、西洋の絵画の形や色などの造形的な特徴をとらえ、それらを基に絵画にこめられた、作者の意図を感じ取り、西洋の絵画の面白さに気付くことができると考える。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちは、これまで図画工作科の時間において鑑賞活動を経験してきており、鑑賞することについては(※1)3分の2の子どもたちが好きであると回答している。しかしながら、好きではないと答えた子どもが14名おり、**鑑賞活動に対し意欲的ではない**。そこで、子どもたちが「見てみたい」と主体的に鑑賞活動に取り組めるような、魅力的な活動のテーマを設定していく必要がある。絵画に自分なりにイメージをもつことができるか(※2)については、2名の子どもが発想することができていない。そこで、形や色などの造形要素と自分のイメージをつなげる手立てを考える必要がある。友達と感じたことを交流することについては(※3)半数の子どもが好きではないと回答している。その理由として、自分の作品への自信のなさや、他者と学び合ったり伝え合ったりすることのよさを感じる経験の少なさがあげられる。そこで、「見せ合うことで、友達のよさが自分の作品のよさにつながっていく」「新しいことがわかる」といった鑑賞活動のよさに気付かせ、気付いたことを価値付けるようにしていきたい。さらに鑑賞の仕方については(※4)直観的な視点で鑑賞する子どもが多く、**細部や作者の意図を考える鑑賞までには至っていない**。そこで、造形要素をクラス全体で見いだし、それを基にした鑑賞活動を取り入れたり、作者の意図を考えさせる鑑賞活動を取り入れたりして、細部や作者の意図を考える鑑賞のよさを実感させることにより鑑賞の幅を広げていきたい。

実態調査	6年ろ組	38名 (4月中旬実施)
1 鑑賞への興味・関心。※1	好き (24名)	好きではない (14名)
(好きでない理由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 興味がない</li> <li>・ 鑑賞の良さがわからないから</li> </ul>	
2 自分なりにイメージをもつことができる。(抽象的な絵画ピカソ「泣く女」を見て) ※2	できる (35名)	できない (2名)
3 友達と感じたことを交流することは好きか。※3	好き (18名)	好きではない (20名)
(好きでない理由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の作品に自信がない</li> <li>・ 交流する良さがわからない</li> </ul>	
4 絵の鑑賞の仕方(複数回答あり) ※4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 直観的に鑑賞する (37名)</li> <li>・ 細部まで鑑賞する (12名)</li> <li>・ 作者の意図を考えて鑑賞する (1名)</li> <li>・ わからない (1名)</li> </ul>	

### (4) 指導上の留意点

ア 「思いをもつ・見通す」段階では、子どもたちが作品を「見てみたい」と主体的に鑑賞活動に取り組めるようにするために、ゲルニカを直観的に鑑賞し、感じたことを自由に発表させる時間を設定する。その際、多様な観点から鑑賞することができたことを価値付け、作品を自由に鑑賞することの楽しさに気付かせたい。また、ゲルニカへのイメージをもったりそれをさらに豊かにさせたりという活動の見通しをもたせるために、直観的に鑑賞したイメージと作品をじっくり見たときのイメージを比較していくことを伝え、「西洋の絵画をじっくりみることでどのような発見があるだろうか。」という題材のめあてを設定する。

イ 「思いを表現する」段階では、鑑賞活動によって見いだした造形要素と、自分のイメージを関係付けるために「ゲルニカに登場する人や動物のセリフを考えよう。」という活動のテーマを設定し、見いだした造形要素を自分の表現に生かす活動を設定する。その際、同じ人や動物で考えたセリフ同士を比較し、人によって作品の見方や作者の意図のとらえ方に違いがあることに気付かせる。また、他者との交流を基にもった新たなイメージを自分の表現に生かしていくために、他者との交流後、**人や動物にセリフをかき加える活動を設定する**。その際、細部までこだわりをもち鑑賞したり、作者の意図をとらえセリフに生かしたりしている子どもを価値付けていく。

ウ 「思いを味わう」段階では、他者と学び合ったり伝え合ったりすることのよさを感じるができるようにするために、最初にもったゲルニカのイメージと、表現活動や鑑賞活動を通して新たなイメージとを比較する。その際、作品を見たり、他者と交流したりすることによってもった新たな発見やイメージに変容が見られたことを価値付けていくようにする。

### 3 目 標

- (1) ピカソの作品「ゲルニカ」を通して西洋の絵画を鑑賞する楽しさを味わい、絵画鑑賞への意欲をもつことができる。
- (2) ○ 「ゲルニカ」の形や色などの特徴と作者の意図を関係付けながら、登場人物のセリフを考えることができる。
  - 描かれている物の形や全体の色調などを見る中で、描かれた背景を考えたり、友達と話し合ったりすることで表現の意図や特徴をとらえたり作品のよさや美しさを感じ取ったりすることができる。
- (3) 絵画に込められた作者の思いを感じ取りながら、「ゲルニカ」と時代の背景とのつながりを知ることができる。

### 4 指導計画（全2時間）

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 「ゲルニカ」に対する第一印象や作品の特徴について話し合う。 〈～直感的に見る～〉	↑ 1	○ 鑑賞活動に対し意欲をもたせるために、自分の作品へのイメージを自由に出させるようにする。その際、「新しい作品の見方がたくさん出せたね。」と価値付けるようにする。 ○ 見るポイントを基に鑑賞し面白さを見付け出すという見通しをもたせるために、西洋の絵画を数点提示し、気付いたことや、さらに詳しく見たいことを発表させ、題材のめあてへと焦点化する。
	2 題材のめあてについて話し合う。 西洋の絵画をじっくりみることでどのような発見があるだろうか。		
思いを表現する	3 「ゲルニカ」がかかれた背景について知る。 ゲルニカという町。爆撃によって多数の人が殺され傷つけられた。	↓ 1 2 2	○ 作者の意図を基に鑑賞させるために、ゲルニカが作られた背景を紹介する。 ○ 自分のイメージをもったり、それをさらに膨らませたりすることができるようにするために、「ゲルニカに登場する登場人物のセリフを考えよう。」というテーマを設定する。 ○ より深くゲルニカを鑑賞させるために、見いだした造形要素を基に、作品へのイメージを高め、「ゲルニカ」に表現されている人や動物にセリフをつけさせる。 ○ ゲルニカの多様な面白さを実感させるために、自分のセリフの見どころについて紹介する時間を設ける。その際、見るポイント（形・色・表情・動き）との関連に気付かせたり、「どうしてこのような形や色をピカソは選択したのだろうか。」と問いかけたりすることで、表現の意図や特徴、作品のよさに気付かせる。 ○ 作者の意図のとらえ方の違いに気付かせるために、考えたセリフ同士を比較させ、共通点や差違点について話し合わせる。
	4 「ゲルニカ」を鑑賞する。 〈～分析的に見る～〉 白と黒でかかっているな。人の表情から悲鳴をあげているようだ。動きにも注目してみよう。		
	5 作者の意図を考える。 (1) セリフを考える。 見るポイントからセリフを予想しよう。 横になっている人の目をみると悲しみが伝わってくるな。 (2) 他の友達のセリフと比較する。 〈～深く味わう～〉 人によって作者の意図の捉え方は違うんだな。 目の形をみると怒っていると思うな。		
思いを味わう	6 ゲルニカのイメージについて話し合い、第1印象と比較する。 最初のイメージは「怖い」だったけれど、人の目の形からピカソの「悲しみを伝えたい」という思いを感じたぞ。	↓	○ ゲルニカに対するイメージの変化を実感させるために、ゲルニカを初めてみたときの感想と鑑賞後の感想を比較させ表現の意図や特徴、作品のよさや美しさを実感させるようにする。 ○ 学びをこれからの自分の表現にいかしていこうという意欲を高めさせるために、今後の自分の表現活動について話し合あわせ、自分なりの表現への課題をもたせる。
	7 学習を振り返る。 自分の思いを表現にいかしていけるようにしていこう。		

## 5 本 時 (2 / 2)

### (1) 目 標

ゲルニカを鑑賞することに興味をもち、造形要素とイメージを関係付ける活動を通して、人や動物のセリフを想像し、作品にこめられた作者の意図をとらえることができる。

### (2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的にした学び合いが重要であると考え。そこで、「ゲルニカに登場する人や動物のセリフを考えよう」という活動のテーマを設定し、セリフを考えさせる中で、造形要素と作者の思いを関係付けさせる。また「なぜ同じ人や動物でも、考えたセリフは違うのだろう。」と問い同じ人や動物を基に考えたセリフ同士を比較させ、新たな造形要素を見いださせる。さらに、新たに見いだした造形要素とゲルニカへのイメージを関係付けながら展開していく。

### (3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 「ゲルニカ」がかかれた背景について振り返る。 ゲルニカという町。爆撃によって多数の人が殺され傷つけられた。	5	○ 細部に込められた作者の意図を感じ取ることができるようにするために、ゲルニカを拡大して提示する。 ○ 作者の意図と造形要素との関連に気付かせる鑑賞活動に取り組みさせるために、「ゲルニカ」が描かれた背景を作者の意図とつなげて伝えるようにする。
	 ゲルニカは作者のどんな思いがこめられているのかな。	3	
思いを表現する	2 学習のめあてについて話し合う。 ゲルニカをもっと深く味わおう。	30	○ 能動的に鑑賞活動へ取り組みさせるために、「登場する人や動物のセリフを考えよう」というテーマを設定する。その際、いくつかセリフを全体で考えることで、造形要素を基にセリフを考えていくという活動の見通しをもたせるようにする。 ○ 多様な造形要素と作品へのイメージとを関係付けてイメージを豊かにもつことができるようにするために、「見るポイントを基にセリフを考えるとどんなセリフが加わるかな。」と問い、動きや表情といった細部を観点にして、セリフを考えさせる。 ○ ピカソの作品にこめられた意図と造形要素とのつながりに気付かせるために、同じ人物や動物を基に、自分たちが考えたセリフを比較させる。その際「なぜ同じ人や動物でも考えたセリフは違うのだろう。」と問うようにする。 ○ 見いだした新たな造形要素とゲルニカへのイメージとを関係付けさせるために、ゲルニカへのイメージを出し合う時間を設ける。その際、直感的な鑑賞で自分もったゲルニカへのイメージと比較させることでイメージの変化を実感させる。
	3 作者の意図を考える。 (1) 登場する人や動物のセリフを考える (～深く味わう～)		
	イメージ ・怖い感じがするなあ。 ・人や動物が描かれているな。		
	鑑賞活動 イメージ ・口の形から泣き叫んでいるように見える。 ・白と黒で表現している。		
思いを味わう	【他者のセリフ】 イメージ ・悲しみを表現するために青や黒をたくさん使っている。	7	
	見いだした造形要素 ・表情などの細部 ・色調 ・人や動物の動き		
	新たなイメージ ・人や物の形や色一つ一つに、作者の意図が関連しているんだな。		
	4 本時の学習を振り返り自分や友達が発見した形や色を紹介し合う。  爆撃に対する悲しみや苦しみといった作者の思いがゲルニカの形や色にこめられているんだな。		